

## 第4期多摩区区民会議 第11回コミュニティ部会 摘録

□開催日時	平成26年2月26日(水) 午後6時00分～7時40分
□会場	多摩区役所10階第1001会議室
□参加者	辻野部会長、松本副部会長 大津委員、国保委員、戸高委員、本多委員、配島委員、小塚委員(以上、コミュニティ部会員) 石橋委員(以上、自然災害部会員)
事務局	門間課長、奈良課員
コンサルタント	斉藤研究員
傍聴者	1名

### 1 審議にあたって

配布資料について部会長から説明があり、区長提出に向けてコミュニティ部会報告書原案の内容について最終の詰めを行った。

### 2 審議

#### (1) 今後のスケジュール

辻野部会長 報告書最終案も報告できる内容に近いものとなった。今日は最後のチェックをしていただきたい。

事務局 事前に、スケジュール的な確認をする。配布した開催スケジュールにあるように3月17日に全体会議を実施する。内容は各部会の最終検討で確定した報告書案を、承認してもらう形を想定している。また終了後11階レストランで慰労の懇親会を予定している。ぜひ参加いただきたい。また、通常全体会の前に実施する企画部会の日程を3月11日(火)午後6時からでお願いしたい。

区長への報告は3月28日(金)9時からを予定しているが、どうか。

辻野部会長 できるだけ早い時間にもしてもらえればよい。8時45分ではどうか。

事務局 区長報告は8時45分からにする。

#### (2) 報告書案について

(事務局が前回からの変更点について説明したあと、部会報告書本文を項目ごとに事務局課員が読み上げ、各委員が問題と感じる部分について、以下のように内容を検討した。)

大津委員 13頁最下段、左の枠の中で、地域の流れの中でいきなり社会という言葉がでてくるが、唐突ではないか。

辻野部会長 地域の中の状況が一般化して社会現象となっていると考えられる筋なので、よいのではないか。

本多委員 同じ枠の中の文字、「子育て介護」は子育てと介護の間にカンマをいれるべきだ。

事務局 そのように修正する。

本多委員 16頁上から6行目、「本当は人々とふれあい」の語句は、本当にそういえるのかの証明ができないので、ないほうがベターではないか。

大津委員 人の心の中はわからないから、「本当は」の語句はない方がよい。

石橋委員 人々の気持ちがわからないから書いてはいけないとするならば、地域での絆を結びあいたいという方向性の文章はすべて推測だから書けなくなる。こういうことを感じ、これまでこのような文章を作成し検討してきた。「本当は」だけ削除すればよい。

配島委員 人の気持ちがわからないにしても、さまざまな現象から地域の人と人の関係につい

て私たちはこう読み解いたという考え方に立って、議論してきたことは書いてもよいだろう。「本当は」の語句だけ削除すればよい。

事務局 そのように修正する。

石橋委員 18 頁上から 8 行目、「地域教育会議が開催する祭事・行事」とあるが、これまで行政区の地域教育会議と中学校区の地域教育会議をごちゃ混ぜに議論してきた。行政区の地域教育会議は研究啓発が目的なので祭事・行事にあたらぬ。もし祭事・行事として載せるならば、中学校区の地域教育会議と明示したほうがよい。

辻野部会長 行政区と中学校の区地域教育会議を区別せよということか。

配島委員 20 頁にあるような事業は、子どもの活動支援委員会（こども会議）の行事として子どもたちに募集をかけてやっているのだから、行事だと考える。

松本副部会長 行政区でやっている子どもの活動支援委員会（こども会議）の事業には一般区民にも呼びかけ参加してもよいものがある。

配島委員 教育を語るつどいは多くの区民に参加を呼びかけている。

石橋委員 教育を語るつどいは前段にアンケートを取り、課題を拾い上げ、分析し詰める議論や研究があり、その結果フォーラムを開催している。行事という意味合いではない。

松本副部会長 一般の人にとっては、前段の議論は見えないが、子どもの教育に関心を持っている人は多いし、広く参加を呼び掛けているので、区別する必要があるだろうか。中学校区でやっている催しも含めて広く公開しているものをイベントカレンダーに載せるものとして考えることに違和感はない。

小塚委員 開催する側はいろいろな位置づけがあるとしても、その行事がオープンになれば、受け取る側はすべてイベントと受け止める。区別をつけるとすれば、その行事が関係者だけなのか、一般が参加できるものなのかという点ではないか。

辻野部会長 イベントカレンダーの目的はふれあえるイベントを区民向けに周知するということだ。区民が自分が受止めたイメージと違和感がない形で参加できるのであれば、載せることができると考えられる。地域教育会議の催しをこの形でのせると違和感につながるのか。

石橋委員 少なくとも「地域教育会議が開催する祭事・行事」の祭事はないので削除すべきだ。地域教育会議はあくまでも子どもの教育はどうあるべきかを考えていて、対象者も子どもを持つ親になっている。イベントカレンダーの対象はもっと広い人々を引っ張り出すことを議論してきた。行政区の地域教育会議とはなじまない感じがする。

松本副部会長 その意味では福祉をテーマにした広く一般に参加者を募るものはイベントカレンダーに載せるかどうかなどの議論があるべきだろう。

辻野部会長 今日は報告書最終文案の検討であり、何をイベントとするかの議論までは戻れない。「祭事」という言葉を削除することとする。

小塚委員 「祭事・行事等」と等をつけることはどうか。

石橋委員 等をつけると益々ややこしくなる。祭事だけを削除するのでよい。

コンサル そのように修正する。

辻野部会長 18 頁上から 26 行目、「公共施設等での配架」とあるが、配架とはなにか。

松本副部会長 図書館などで各種パンフレットなどを置く棚があるが、公共施設のそうした棚に置くことを配架という。

辻野部会長 わかった。

本多委員 18 頁上から 4 行目で、その上の小見出しが「祭事・行事情報」となっているのに、その下の行の書き出しが「祭り・イベント情報」とあるのは、何か意味があるのか。

コンサル 修正漏れであるので、「祭事・行事」と修正する。

松本副部会長 19 頁「多摩区の年中行事」の開催時期は、上旬等とあるが、日付はいれないのか。

本多委員 毎年日付が変わるので書くことができない。

事務局 これは多摩区で行われている年中行事の例示であり、どのような形式で載せるかは来年度の作成時での検討になる。

松本副部会長 実際に作成する場合は日付を入れたほうがよい。

事務局 本報告書では例示として挙げているので、実際に作成するときには、イベントカレンダーとして日付を入れることになるだろう。

大津委員 19 頁「商店街のまつり」は実施主体が商店街、商店会とあるが、商店街でよいのか。

松本副部会長 商店が連なっているところは、通常商店街と呼ぶが、実施主体の組織の名称としては商店会もある。

戸塚委員 連合商店街のホームページが出典で、その通りになっているのであればよい。

本多委員 21 頁右上の枠内、下から 5 行目に「参加形態の印がある」とあるのは、「参加形態の情報がある」ということか。

事務局 「情報」の方がわかりやすいので、そのように修正する。

国保委員 21 頁右下の枠内、6 行目「宗教が背景にある」とあるが、そういう場合があるのか。

松本副部会長 町会では普通のお稲荷さんなどの祭りは寄付金を募ってみんなで神輿を担ぐが、キリスト教や新興宗教の人から、自分が出した町会費を特定の宗教行事に使われるのは嫌だという人もいるため、配慮は必要になる。特定の宗教の大々的な記念祭などもどう扱うかの検討が必要となる。

大津委員 ある学校のどんど焼きを見たお母さんが、自分の学校でもやろうと呼びかけたところ、歳之神の行事と聞いて、特定の神の行事はやれないと反対された話をきいた。宗教ではそういうことが起こることもある。

石橋委員 21 頁は下の方に空きスペースがあるが、中途半端なので詰めた方がよい。

コンサル そのように修正する。

戸塚委員 23 頁の本文と下枠の間は空いているので、当日配布したちらしを入れた方がよいのではないか。

コンサル そのように修正する。

大津委員 25 頁枠内の「セレサ川崎農業協同組合」は頭に JA をつけないでよいのか。

事務局 JA は農業協同組合の意味なので、2 重になるのでいらないだろう。当日の案内ちらしにこのように表記されていた。

辻野部会長 念のためちらしを再チェックしてほしい。

コンサル 再チェックする。

本多委員 25 頁上から 5 行目、「同様な事業」とあるのは、どの事業を指しているのかわからない。

石橋委員 「同様な」を削除して、「健康・食育をテーマとした」と修正したほうがよい。

コンサル そのように修正する。

大津委員 27 頁、右上枠内上から 12 行目「親子セットで出させる」は、上から目線の言葉に受止められる。

コンサル 「親子で出してもらおう」と修正する。

戸高委員 27 頁、右上枠内上から 7 行目「アラフォーの親がいる」は、気になる。変える必要があるのではないか。

辻野部会長 フォーラムの個人の発言なので、修正する場合はその人が言いたかったことの変更につながることも考慮する必要がある。アラフォー世代は周りへの感謝や配慮が足り

ないという議論の中で出た言葉だ。

大津委員 そうした議論も踏まえてアラフォーといったのはわかるが、この言葉にカチンと来る人もいる。40代と言い換えられないか。

小塚委員 アラフォーは会話の中ではよいが、文字として出てくるといやな感じはある。

戸高委員 40代と言い換えるとしても、この世代が問題がある世代だと特定し、その世代に向けて刺激をあたえるとするのは、決めつけすぎと受け止められ問題があると感じる。

配島委員 あえてアラフォー、40代と書かなくても、保育園、幼稚園に子どもを通わせる親はこの世代なので、書く必要はない。「刺激を与える」は「刺激となって」と変更するのがよい。

辻野部会長 「刺激」という言葉も必要ない。「川柳募集をすると効果的だ」とするのがよい。

事務局 そのように修正する。

本多委員 27頁、下枠内に「スクールガードリーダー」とあるが、これは通常ある役割なのか。

松本副部会長 実際に私の学校区にある。

本多委員 28頁上から14行目の趣味活動を行っている施設はどの施設を指すのか。

石橋委員 市民館を代表に、いこいの家などを指しているのだろう。

本多委員 イベントカレンダーに趣味活動を入れるのは違和感がある。

コンサル 部会では趣味活動の創出を目指して活動してきたが、新しく作り上げるのは難しいため、既存の活動を周知することによって、ふれあいの絆を作りやすくすることに議論が進んだ。新たに活動情報のための媒体を出すのではなく、来年度作成されるイベントカレンダーに掲載するのがよいという結論になった。

本多委員 趣味の活動情報はたくさんあり、載せきれないのではないか。

辻野部会長 活動すべてを載せるわけではない。選択して載せることになるので、心配はない。

石橋委員 28頁上から14行目の最後、「情報を掲載する」という語句は<作成時の注意事項>の見出しに合わない。「検討する」に変更したほうがよい。

事務局 そのように修正する。

石橋委員 28頁下から4行目、「たとえば」以降を改行する。また、下から3行目「あいさつ週間」の後にカンマを入れる。

コンサル そのように修正する。

石橋委員 昨日の自然災害部会で指摘された、7頁下から2行目の「商店街も体力が無くなり」は、「体力が無くなり」の言葉に変えて、商店街には後継者も少なくなり、雇人もいないため、会合や活動に出られなくなった状況を表す言葉に変えることになったことを伝えておきたい。

辻野部会長 本日はコミュニティ部会の報告部分について詳細に検討をしてきた。事務局とコンサルで最終稿にして、委員さんの熱い思いを重く受け止めてもらい、よい形で全体会議に臨み、区長さんに提言できるようにしてほしい。

事務局 来週早々に本日の議事の摘録と修正版を全委員に送付し、確認いただくことを考えている。その後印刷に入り、全体会、区長提出と進めたいのでよろしく願います。

辻野部会長 これでコミュニティ部会最終回を終了とする。ありがとうございました。

以上